

資料 2

一宮川流域懇談会

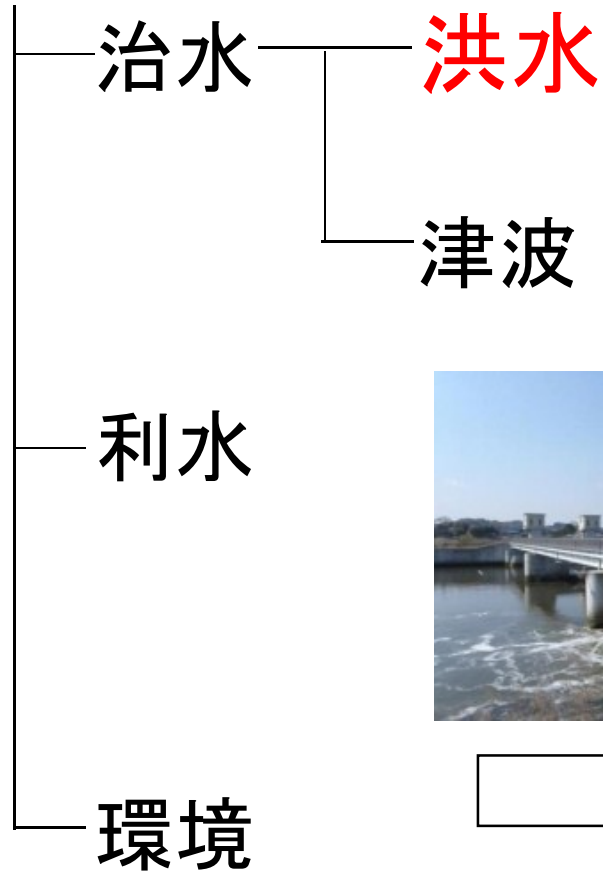
平成26年10月27日

一宮川流域懇談会事務局

## 河川整備計画(原案)について

1. 河川整備計画の概要
2. 過去の浸水状況
3. 河川工事（洪水対策）の目標
4. 河川工事の種類と施工の場所
  - i) 第二調節池の容量の増設の効果
  - ii) 河道改修の効果
5. 流域対策について

## 河川整備計画



治水（洪水対策）



治水（津波対策）

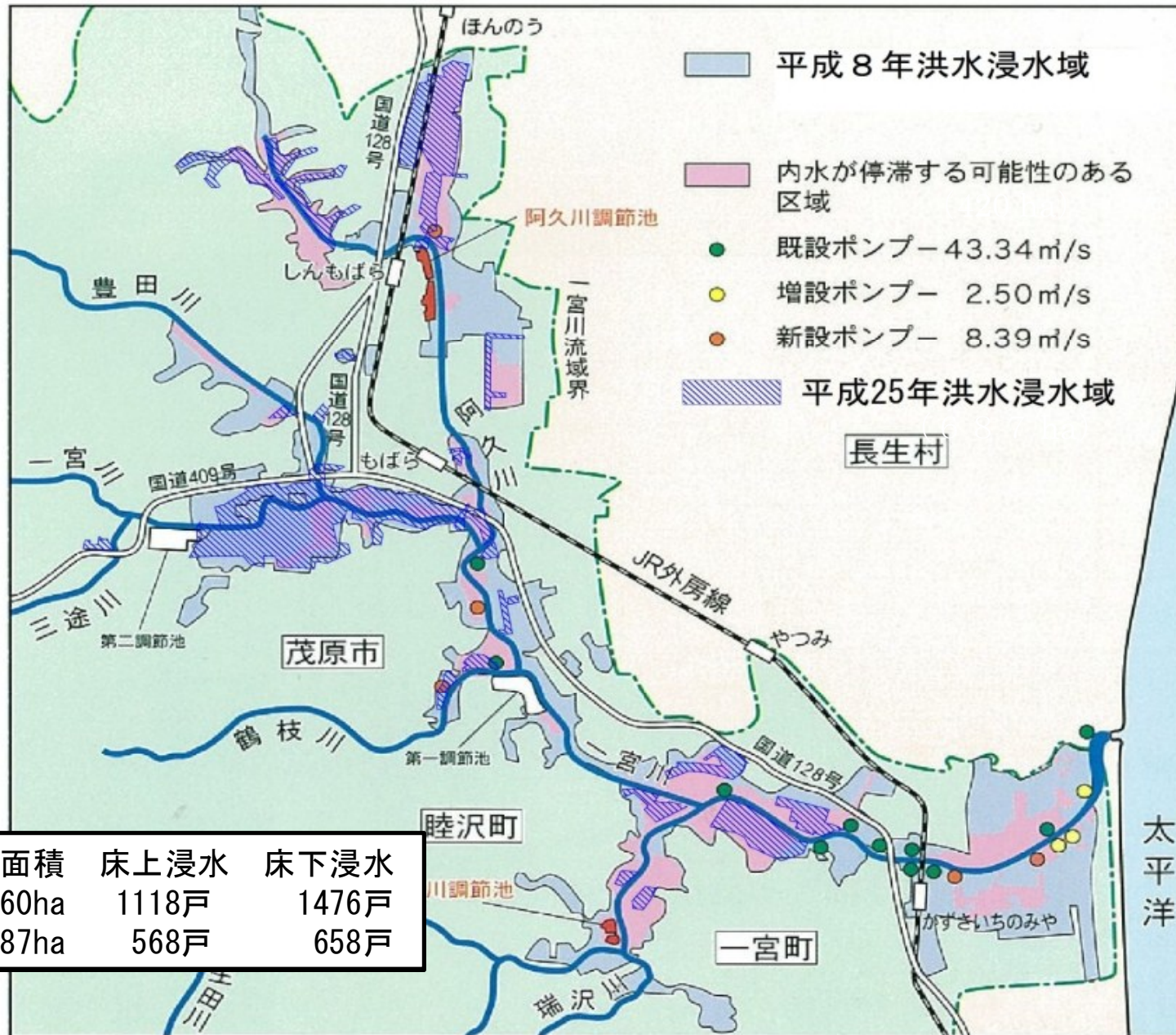


利水



環境

## H8年およびH25年災害の浸水状況



	浸水面積	床上浸水	床下浸水
H08	1260ha	1118戸	1476戸
H25	687ha	568戸	658戸

- 計画規模

年超過確率1/10の規模の洪水を  
安全な水位以下で流下させる

※千葉県の洪水対策の目標

『洪水などによる被害を防止するため1時間当たり50ミリメートル程度の降雨に対応した河川整備を推進します。』

（千葉県総合計画より）

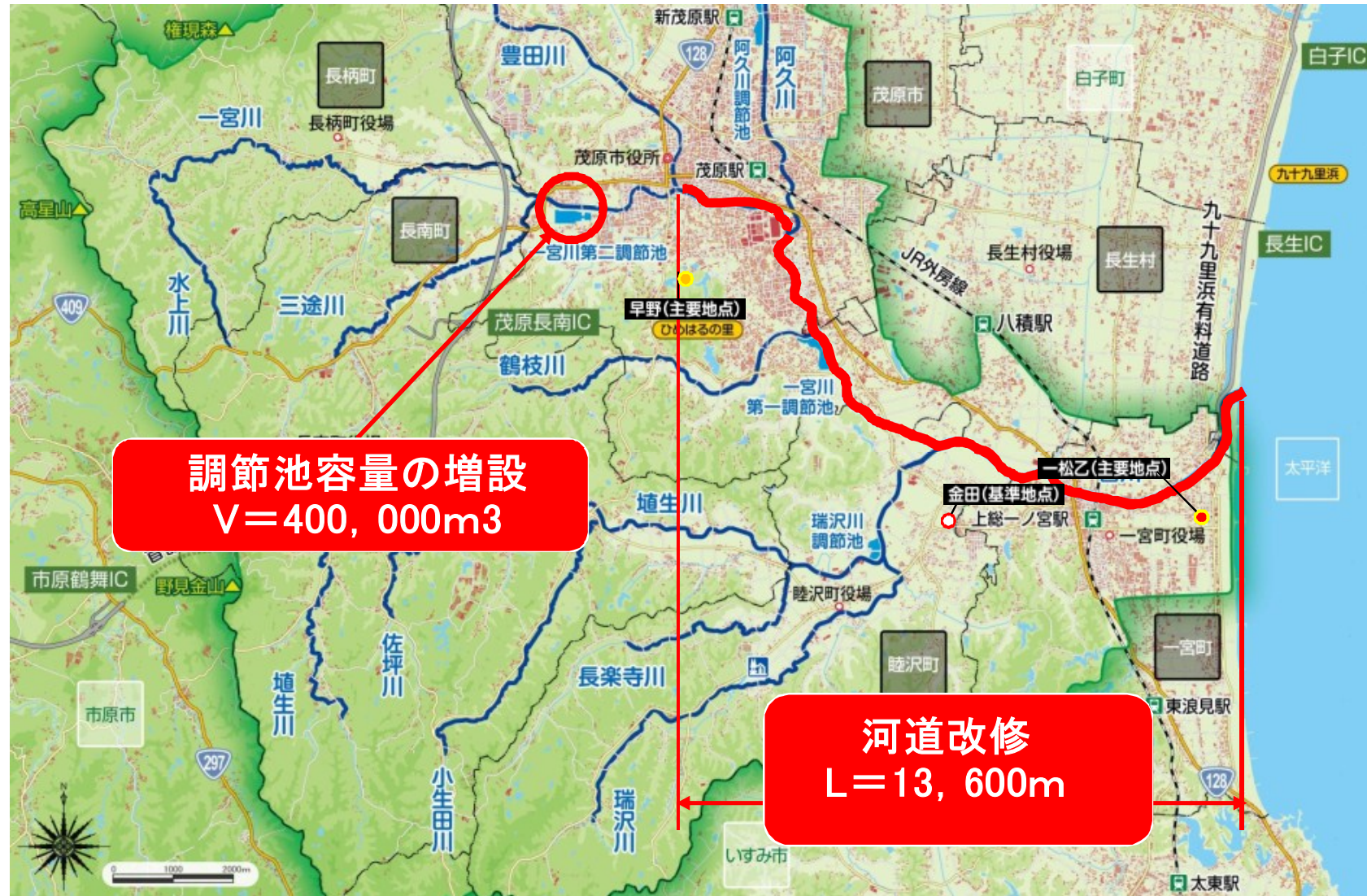
※一宮川の年超過確率1/10の雨量

継続時間	1時間	46mm
	6時間	127mm
	24時間	219mm

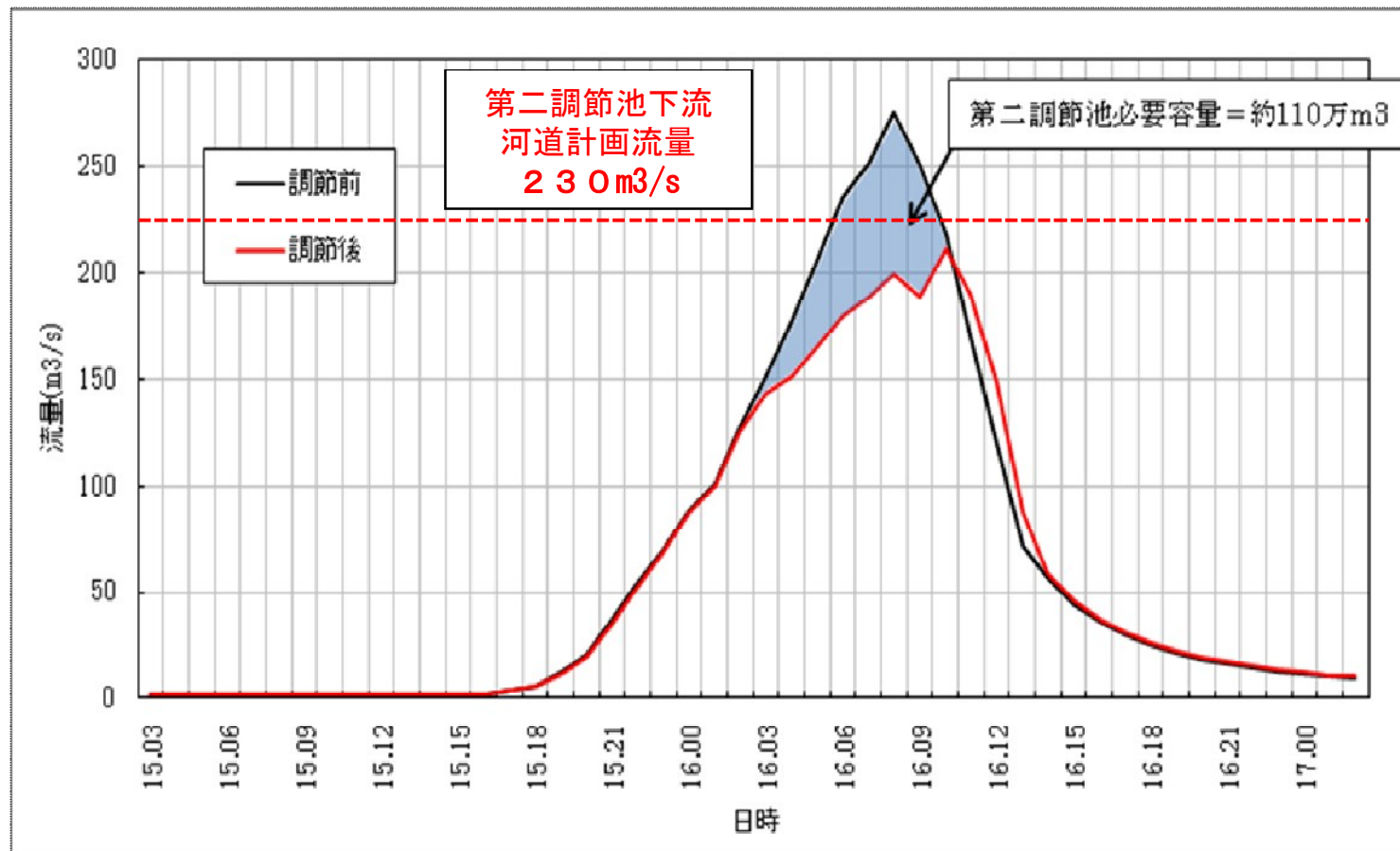
- 対象期間

概ね20年

# 4.河川工事の種類と施工の場所

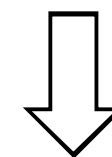


## 第二調節池増設容量の根拠



第二調節池

70万m<sup>3</sup>



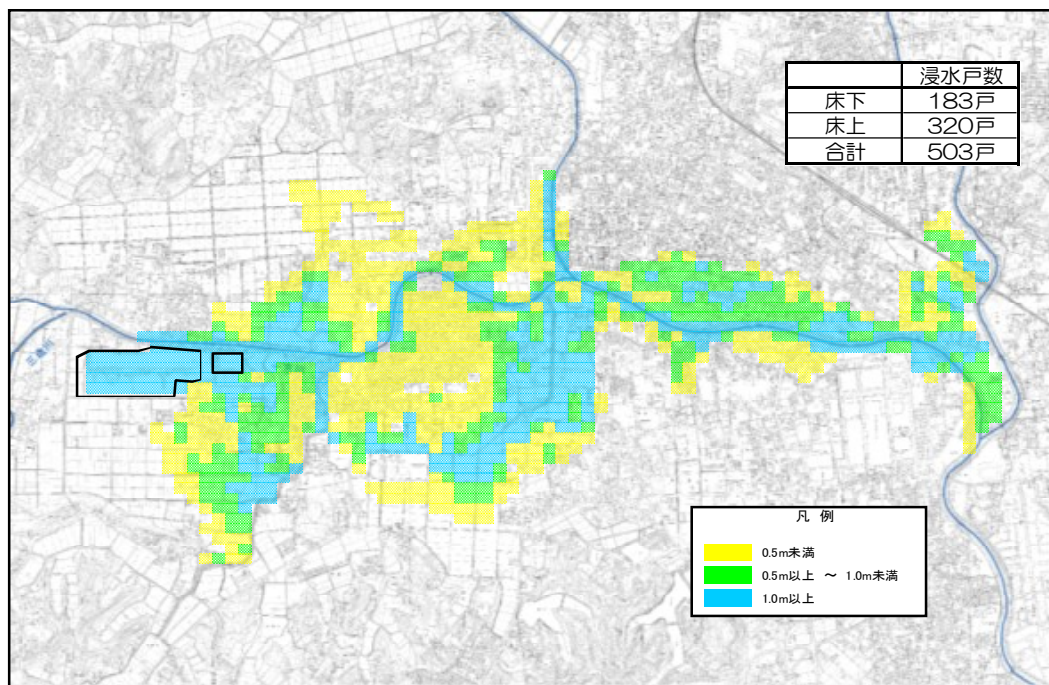
40万m<sup>3</sup>増設

110万m<sup>3</sup>

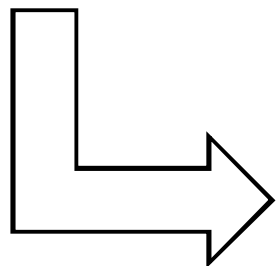
平成25年10月15日～16日実績降雨の第二調節池ハイドログラフ

## 第二調節池の容量の増設の効果

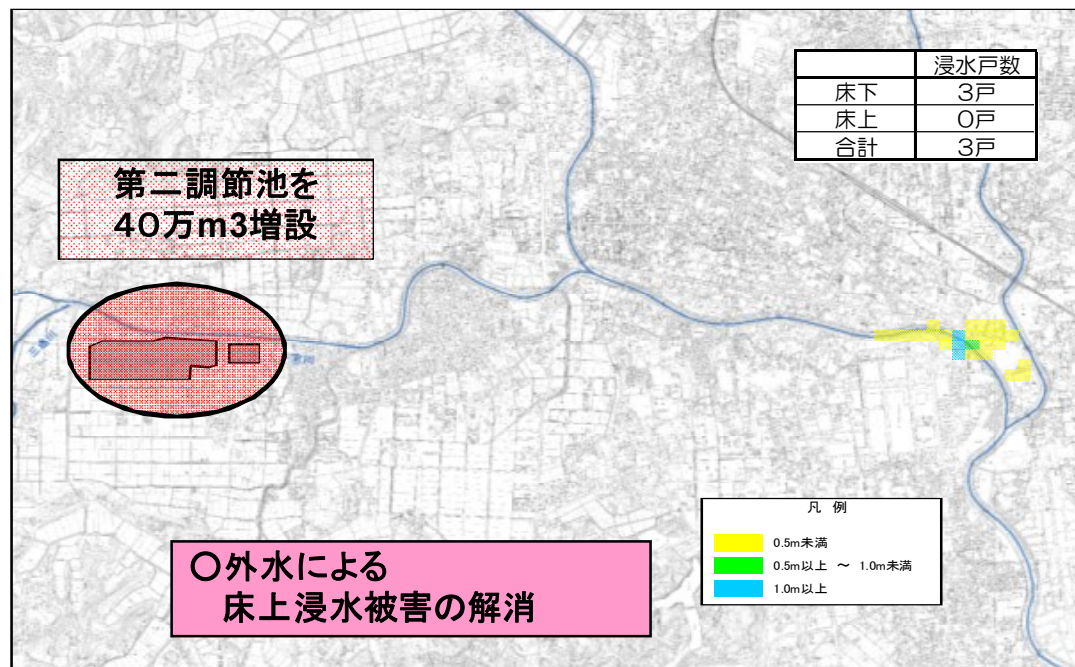
平成25年10月台風26号によるはん濫実績



一宮川上流域から流下する洪水を茂原市街地区間直上流に位置する第二調節池に貯める量を増やすことにより、減少させる。



### 第二調節池増設後の浸水シミュレーション



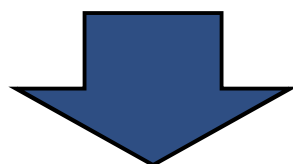
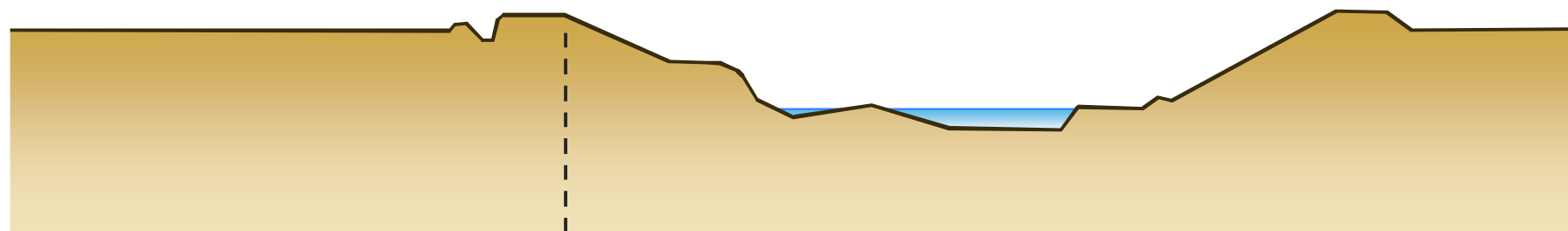


# 4. ii) 河道改修の効果(1/4)

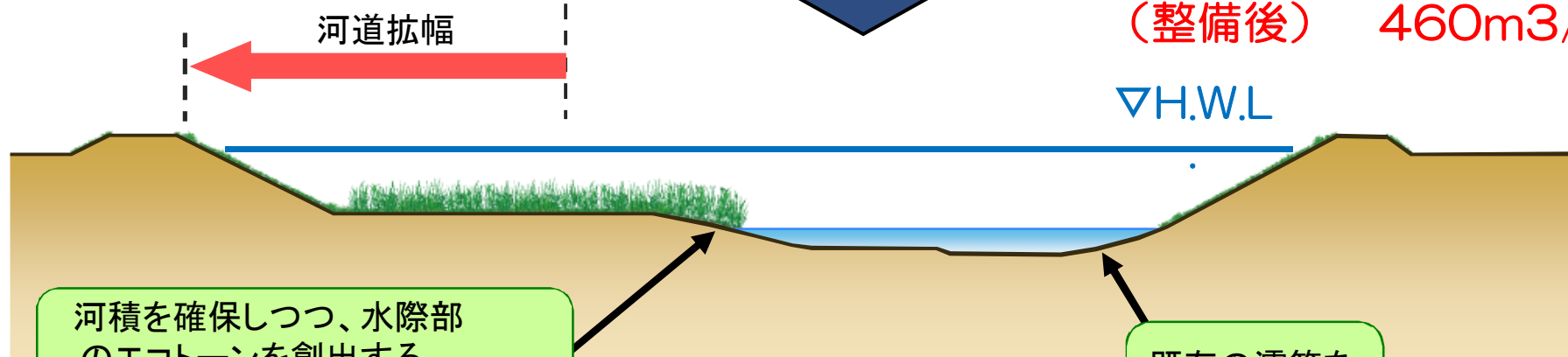


## 整備区間① (瑞沢川合流点～阿久川合流点)

(現況) 300m<sup>3</sup>/s程度



(整備後) 460m<sup>3</sup>/s

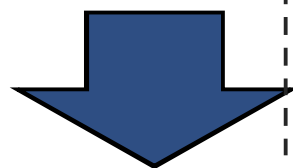
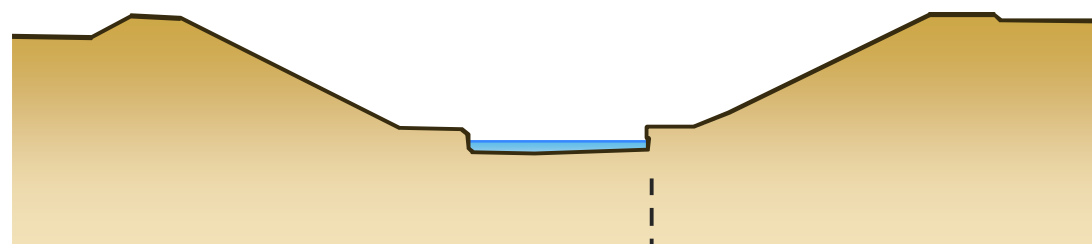


河積を確保しつつ、水際部のエコトーンを創出する。

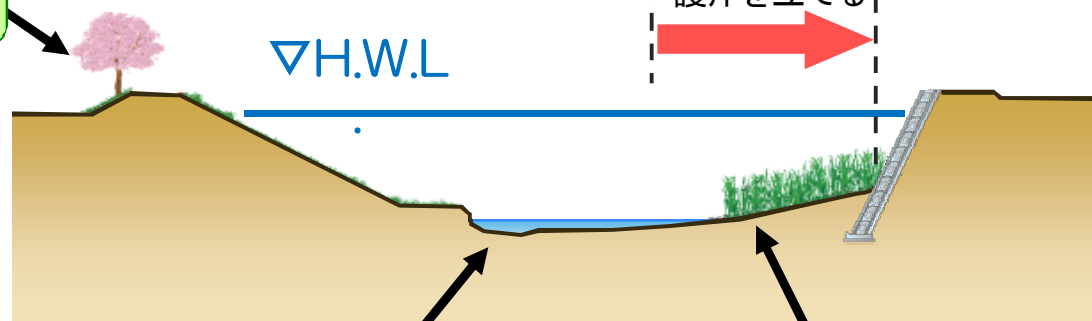
既存の滯筋を極力保全する。

## 整備区間② (阿久川合流点～豊田川合流点)

(現況) 220m<sup>3</sup>/s程度



左岸に連続する既存の桜並木の保全に配慮。



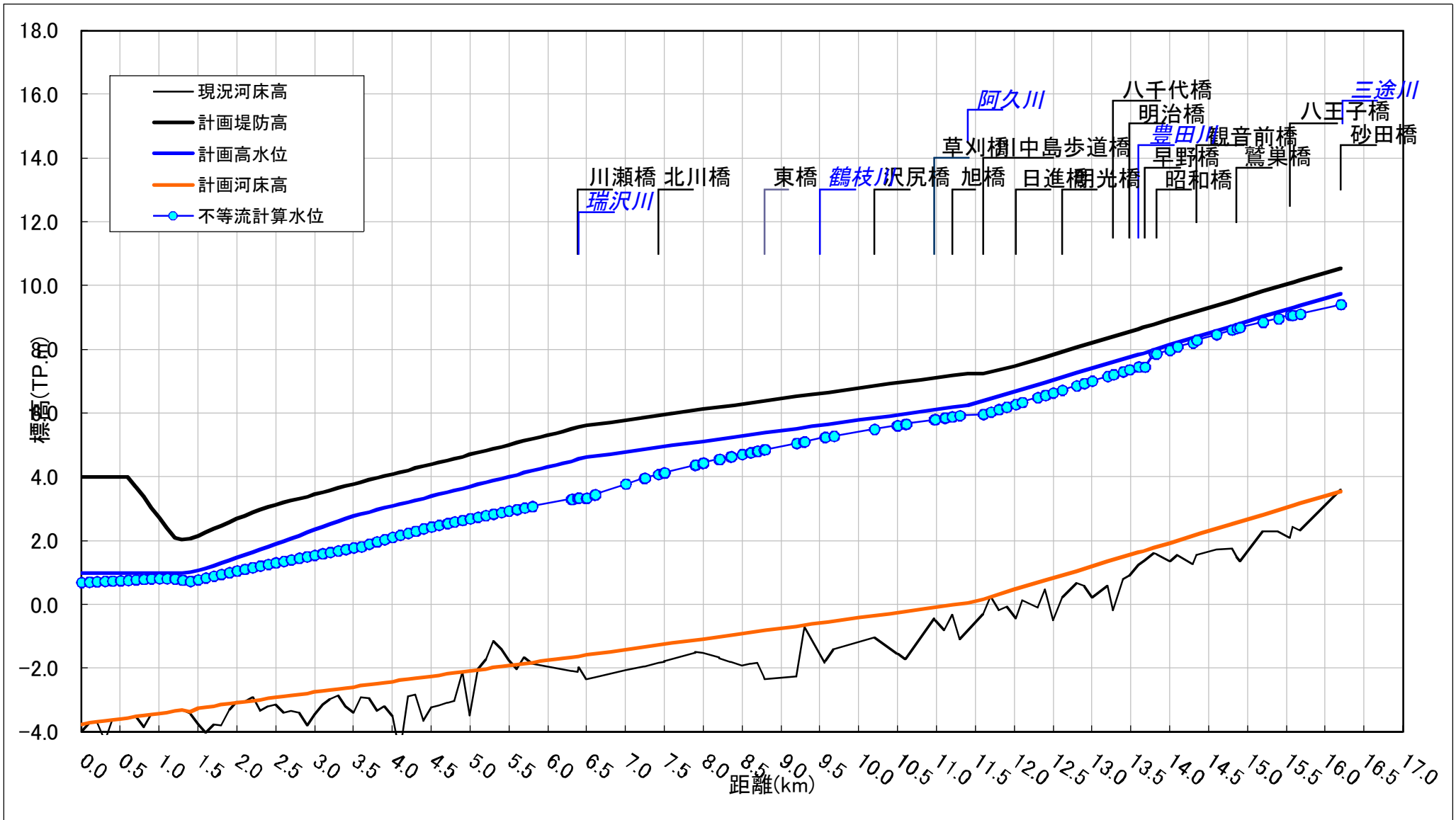
(整備後) 330m<sup>3</sup>/s

既存の滞筋を極力保全する。

河積を確保しつつ、水際部のエコトーンを創出する。

# 4. ii) 河道改修の効果(4/4)

## 河道改修後の水位縦断図



# 5.流域対策について

## 流域対策イメージ

### ため池の治水利用

耕作終了後に、ため池の水位を可能な範囲で下げることにより、雨水を貯める容量を確保します。

流域にあるため池の総容量は、

約**37.2万m<sup>3</sup>** ※

これらのため池について、治水利用するための協定の締結に向け交渉が始められています

※茂原市内にあるため池のうち、一宮川流域に該当する23箇所の容量の合計

### 学校・公園での貯留

流域内にある学校や公園の敷地を活用し、地上や地下に雨水を一時的に貯めることで流出抑制効果が期待できます。

茂原市内の全小中高校に貯留浸透施設を設置した場合、

約**1.6万m<sup>3</sup>**

の雨水を貯留する容量があります

都市化の進展等により地域の排水が良くなると、降った雨がより早く、大量に河川へと流れ込むようになります。流域対策により従来土地が持っていた雨水を貯留・浸透させる機能を取り戻すことで出水を軽減できるほか、近年激しさを増すゲリラ豪雨などにも効果を発揮します。

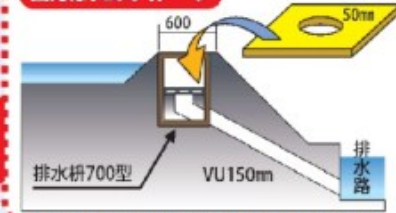
### 農地等での貯留

流域内の田畑や、林地・緑地の保全によって保水・湧水機能の保全に努める手法。近年、特に水田での遊水機能が着目されています。

### 「田んぼダム」の事例

新潟県では、田んぼの排水口を穴の開いた羽目板等で絞り、雨水がゆっくり排水されるようにする取組で効果をあげている。

### 田んぼダムのイメージ



### 各戸貯留浸透施設の普及

流域内の一般・集合住宅や商業ビルに、小規模な貯留浸透施設を設置することで、流出抑制効果が期待できます。

茂原市では、流出抑制対策の要綱を制定し、雨水貯留槽や雨水浸透ます設置工事費用の補助を開始しました (10月1日より)